

佐賀建設新聞

発行所
株式会社 建設新聞社
〒849-0301
小城市牛津町乙柳1145-7
Tel. 0952-66-5750 (代)
FAX 0952-66-5751

土構造物の防災・減災対策

九大の石藏准教授ら講演

県地質調査業協会地盤工学セミナー

佐賀県地質調査業協会(原裕理事長)は9月30日、唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」で第23回地盤工学セミナーを開催した。セミナーでは九州大学工学研究院社会基盤部門の石藏良平准教授、佐賀県道路課の満石孝司技術監、同協会理事長で日本建設技術協会の原裕代表取締役が「土構造物等に係る防災・減災対策」をテーマに講演。会員企業をはじめ、建設会社や建設コンサル



▶あいさつする原理事長

タント会社から約100人が参加し、熱心に聴講した。同セミナーは土木技術者の地盤工学に関する知識向上などを目的に2010年度からスタート。冒頭、原理事長が「地震や豪雨などの自然災害が全国で発生しており、今後も国土強靱化の推進が求められる。我々技術者は県民の安全と安心を守るため、常に新しい知識や技術を身につける努力が必要であり、このセミナーが今後の職務に対し、少しでも役

に立つのであれば幸い」とあいさつした。石藏准教授は「近年の九州における地盤災害発生状況と土構造物の危険度評価に向けた取り組みについて」の題目で講演。17年九州北部豪雨や20年7月豪雨で発生した斜面、堤防、ため池などの地盤災害に対する災害調査の結果を踏まえ、被害



▶講演を行う石藏准教授

また、20年7月豪雨でパイピング破壊が発生した筑後川堤防の調査結果を紹介し、「今回のパイピング破壊の危険性は低かったが、局所的な地盤構成の違いがパイピングに対して弱部となりうることを示唆している。今後は基礎地盤を含めた河



▶講演を行う満石技術監

川堤防の層構成を注意深く点検できる調査方法の確立が求められる」と話した。満石技術監は、県が管理する道路の概要や防災・減災対策などを説明し、県道における近年の被災状況を写真で示しながら解説した。原代表取締役は「地球温暖化とミラクルソ

ルの環境負荷低減技術」の演題で講演し、地球温暖化による異常気象や世界的な気温上昇、二酸化炭素の排出削減の重要性などを指摘。ガラス廃材を使つ

たミラクルソルト、FVG透保水性舗装工法などの特長を紹介した。